

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		調布市総合福祉センター 放課後等デイサービスびっころ				公表日	2025年3月24日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10		適切なスペースがあり、1人で落ち着けるスペースもあり、環境が整えている。おやつ時間をスケジュールすることにより、混みあわず、ゆっくり喫食ができるよう配慮している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10		こどもに対して担当するスタッフを決めており、こどもが安心して過ごせるようにしている。マンツーマン対応が必要と思われるこどもにはスタッフが配備され、手厚い支援を行っている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10		視覚的にわかるよう、工夫している。シンプル且つわかりやすく構造化している。車いす移動の肢体不自由児の利用もあるが、完全バリアフリーのため、快適に過ごせるよう配慮している。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10		使用物品のごまめな消毒、部屋の換気を実施している。活動の部屋、ゆったり過ごす部屋、おやつ部屋、と分けることにより、それぞれが心地よく過ごせる環境となるよう配慮している。	暑さ対策が課題 定期的に、器具什器を含めた、備品の管理を行う。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10		スヌーズレンを設置し、心地よく過ごせるようにしている。落ち着いて過ごすことが必要な場合、部屋内での着替えが必要な状況など、個別に仕切って利用できる場所を設置している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7	3	担当職員間のMTGや、職員面談を通じて業務改善に努めている。また、音楽療法士間では、目標設定はいつでも確認できる状況にあり、日々セッションについて振り返りを行っている。	業務時間との調整を図りつつ、全職員でPDCAサイクルを適切に遂行できるようにする。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	1	意向を把握する機会を設けている。意向等を、職員MTGで議題とし、業務改善につなげている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	1	職員面談を実施している。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9	1	令和6年度受審済 評価結果を職員MTGで議題とし、業務改善につなげている。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10		今年度は、虐待防止研修、食物アレルギー対応研修、緊急時対応研修他を実施 必須の研修の他、業務に関連するさまざまな研修に参加するとともに、専門職としての研修にも参加している。	研修受講に伴う業務調整や時間確保が課題	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10		こどものアセスメント、音楽療法の経過に基づいて作成している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	10		年3回の保護者面談によるニーズ把握をしている。また、複数の音楽療法士の目で個々のアセスメントを行い、日頃から意見交換をし、そこから見えてきた課題とこども自身・保護者のニーズを取り入れて計画を作成している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10		児童発達支援管理責任者、児童指導員（音楽療法士ほか）で協議しながら計画を作成している。		

適切な支援の提供	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9	1	職員間で共有して、支援を行っている。	職員だけでなく、支援員にも共有がされるようにしていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	1	こどもの特性や適応行動の状況把握を行える書式の使用し、アセスメントを丁寧に行っている。	フォーマルなアセスメントツール等、今後最適なツールを使用していけるよう検討する。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10		音楽療法内のプログラムは音楽療法士が立案し、長期休み中のプログラムは事業担当者・支援員で立案し実施している。保護者面談の情報や、活動プログラムなどを共有して検討している。グループにはリーダーがいるが、プログラムの内容が適切であるかどうか、チームでチェックするようにしている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10		こどもたちの成長や実態の変化に即し、その時期に必要なプログラム設定を行うようにしている。長期休業中は、室内での水遊びや壁面アートなどに取り組んだ。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10		遊びの場面である個別活動と集団活動である音楽療法を組み合わせ支援している。また、こどもの状況に応じて、柔軟に活動を変更するようにしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	1	支援員、音楽療法士、職員で打合せを行うようにしている。状況に応じて個別や全体で打合せを行っている。	業務時間、業務量によって、十分な時間確保できていないのが課題。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9	1	音楽療法士を含む職員間で振り返りを行っている。共有事項は、次回来所前の打合せにて支援員を含め共有している。	業務時間、業務量によって、十分な時間確保できていないのが課題。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	1	本年度から業務改善ソフトを導入し、連絡帳や各種記録作成、請求業務等を行っている。こどもがどのような反応や行動をとったかを記録し、必要に応じて保護者と共有している。	手書きの連絡帳より保護者からの情報が減少しているのが課題。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10			
関係機関や	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	9	1	音楽療法と自由遊びによる「自立支援と日常生活の充実のための活動」、「多様な遊びや体験活動」、「こどもが主体的に参画できる活動」の実施している。	各職員に放課後等デイサービスガイドラインの周知を行う。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	10		視覚教材などを用いて、自己決定の機会を設けている。一人一人の状況にあった支援が行われるようにプログラムを工夫している。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	1	学校訪問、事業公開等を通じて関係機関との連携を図っている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	10			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9	1	事業公開を実施し、各機関と情報共有をしている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	6	必要に応じて、保護者同意の上、共有を行っている。	

保護者との連携	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8	2	児童発達支援センター主催の研修には、都合がつけば参加するようにしている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	8	具体的な企画等はしていないが、外出活動の際、障がいのないこどもとのやり取りの機会がある。	保護者アンケートの意見等を踏まえ、必要性も含め今後検討していく。
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	4	6	管理者が自立支援協議会に参加している。また、作業所連絡会における、児童部会に参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10		年3回の保護者面談や日々の利用送迎時でのコミュニケーションの機会を活用している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	7	びっころで直接ペアレント・トレーニング等の講習会や講演会は企画していないが、情報提供や、保護者面談等で必要に応じて、支援を行っている。	保護者の意向等踏まえて、必要に応じて企画の検討をしていく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9	1		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	10			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8	2	父母の会の活動はないが、保護者会が交流の場となっている。	保護者会以外の交流の場については、保護者のニーズ把握をし、必要に応じて検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	2	会報の発行はないが、保護者会や保護者アンケートを踏まえての取組等の情報発信を行っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		保護者面談を通して、こどもがどのように思っているか、こちらの見解を伝え、親子の関係性の向上や維持に励んでいる。	
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	9	1	地域住民が支援員として児童の支援を行っている。事業所の行事ではないが、市内の福祉事業所や特例子会社で活動する当事者の作品を展示するパラアート展に出展している。		
非常時	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	2	各対応マニュアルを作成し、びっころ職員室、活動室前に、掲示・保管している。	全従業員に各対応マニュアルの保管場所を周知する。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	1	BCP策定済、本年度机上訓練にてBCPの見直しを行う。1月に避難訓練を実施。職員だけでなく、こどもたちも避難訓練に参加している。	全従業員に、BCPの周知を行う。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	6	現在、食物アレルギーのあるこどもはいないが、該当するこどもがいる場合に対応できるよう食物アレルギー対応の研修を実施。	該当児がいた場合、医師の指示書をもらうようにする。食物アレルギー発生時のマニュアルを整備する。

等 の 対 応	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10		安全計画を作成し、避難訓練や緊急時対応研修を実施している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	4	本年度緊急連絡用の名簿や災害時引き渡し確認票を保護者の協力のもと作成している。	安全計画に関する取組内容を周知する。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10		毎月のミーティングで共有し、再発防止策を検討している。 実際にどのようなことが起きたのかを、文章化して、全体で共有している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4	6	身体拘束が必要な事象が発生した際は、組織として検討し、適切に対応する。	